



正井 佐知

Sachi MASAI

特別支援学校の防災に関する課題の抽出：
聞き取り調査についての報告

特別支援学校の防災に関する課題の抽出

—聞き取り調査についての報告—

正井佐知、河田慈人、ピニェイロ アベウ タイチ コノノ、木作尚子

1. 研究の目的

人と防災未来センターでは、小学生・中学生の団体を対象とした「防災セミナー」の実施や、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもたちや学生を顕彰する「ぼうさい甲子園」の開催など、防災教育の支援・推進に重点を置いている。近年は、「ぼうさい甲子園」で特別支援学校がグランプリに輝くなど、特別支援学校の防災教育について焦点が当たる機会が増加している。

このように特徴的な防災教育が着目される一方で、特別支援教育において一般的にはどのような防災教育がなされているかは十分には明らかにされてこなかった。防災研究でもその傾向は同様である。被災経験のある地域や災害が高確率で起きるとされている地域を中心とする特徴的な取り組みの実践例を紹介する研究は散見されるものの、それ以外の学校を含む全体像は十分に明らかにされてこなかった。

特別支援教育における安全教育の目標は「児童生徒等の障害の状態や特性及び発達 の程度等、さらに地域の実態等に応じて、安全に関する資質・能力を育成することを目指す」とされている(文部科学省 2019)。教育内容は現場の裁量に大きく委ねられているため、同一の学校内でも児童生徒の特性や個別事情に配慮した教育デザインが必要であるとする、教育の質は学校の力量やマンパワーに依存することも考えられる。公教育で質的な差が生じているとすれば、実質的に学習の機会が保障されているか、どのようにすればそれは可能かを検討することは重要であると考えられる。

上記の研究の一環として実施した 2021 年 8 月に特別支援学校の関係者への聞き取り調査から特別支援学校における防災の課題を整理する。

2. 調査の概要

聞き取り調査は、元 PTA 役員である A 氏 (2021 年 8 月 17 日)、阪神・淡路大震災時に養護学校教員であった B 氏 (2021 年 8 月 18 日)、阪神・淡路大震災時に視覚支援学校の教員であった C 氏 (2021 年 8 月 23 日)、視覚特別支援学校の現役教員である D 氏 (2021 年 8 月 30 日)、特別支援学校の現役教員である E 氏 (2021 年 8 月 26 日) に対して、過去の災害経験や現状の課題について半構造化面接の形式で実施した。

3. 分析

聞き取り調査で明らかになった課題をカテゴリ化した。紙幅の都合上、表のみ示す。

表 1 A 氏 (元 PTA 役員) への聞き取り

課題カテゴリ	課題の内容	解決策 (解決に向けて実際に実施したこと (X)、今後の課題解決の提案(Y))
防災の優先度	毎日が「大災害の連続」のようであり、防災の優先度は低い	大阪府北部地震をきっかけに、教育委員会が積極的に改革を推進した。(X)
教員の安全	教員が助かることについてあまり考えられていない。	教員の安全についても要検討。マニュアル見直し。(Y)

家庭との連携		教員の負担過多。	・ルールを詳細に決めておく。(Y) ・教員が親の要望に応えすぎないように、PTA が親と教員の緩衝材の役割を担う。(X, Y)
過去の災害での経験	放課後等デイ	放課後デイとの連携不足(放課後デイに引き渡した児童の保護者への連絡が遅くなった)。	・1カ月前に放課後デイに行く日の予定を提出するなど、事前にルールを定める。(Y)
	通学バス	通学バスが出発した後に災害発生。	事前にルールを定める。(Y)
地域との連携		地域との関係性が薄い。	指定避難所として指定されると地域と共同で活動することが期待される。(Y)
PTA と卒業生との関係			・PTA のOB 会もあり、卒業生との結びつきは強い。(Y) ・卒業生名簿は、災害時の所在地の把握に有用。(Y)

表 2 B 氏 (阪神・淡路大震災時に養護学校教員) への聞き取り

課題カテゴリ		課題の内容	解決策 (解決に向けて実際に実施したこと (X)、今後の課題解決の提案(Y))
阪神・淡路大震災時の課題	安否確認	個別訪問で全員の安否確認に一週間を要した。	
	学校の再開	早期再開の要望が多かったが、インフラ等の面から児童が登校することはできなかった。	・教員が4か所の地域に出張し、地域教室を開設。(X) ・給食の代わりに牛乳とパンを用意するなどで対応。(X)
	家族の様子	多数の家庭が避難所に行けなかった。 家族の疲労、早期再開の要望	車中、在宅避難、親せき宅への避難。(X) 家族のレスパイトケアのため、バスで災害の影響のない北部に移動し課外活動を実施。(X)
防災教育	風化	阪神淡路大震災から数年で風化	
	知的障害	教育内容の工夫が難しい	・発達段階ごとの学習を提供。(Y) ・重度の児童の場合、災害時に自分の感覚(快不快、恐怖)を周囲に伝えられるようになることが必要。(Y)
地域との連携	地域全般	小中高と進学するにつれて疎遠になる傾向。	
	放課後等デイ需要の増加	下校時に放課後デイの送迎車が学校前に50台以上並ぶ。	学校と福祉が連携する必要がある。(Y)

表 3 C 氏 (阪神・淡路大震災時に視覚支援学校の教員)

課題カテゴリ		課題の内容	解決策 (解決に向けて実際に実施したこと (X)、今後の課題解決の提案(Y))
阪神・淡路大震災時の課題	安全確認	校舎が使用可能か不明	被害状況を教員で分担して確認。(X)
	寄宿舎居住の児童・生徒への対応	寄宿舎にいる児童・生徒への食事の提供。物資が無い。	家族と連絡を取り、帰宅してもらう。連絡が取れない場合は、職員が自宅まで送り届けた。(X)
	避難者対応	近隣の人が学校の敷地に入っていた。	・避難所ではなかったが、体育館を開放した。(X) ・汁物を職員が作って避難者に振る舞ったり、寄宿舎にいた生徒が按摩・鍼灸をしたりした。(X)
	児童・生徒への対応	県立のため県全域から通学	車で家庭訪問し、学習課題を届けるとともに児童・生徒の様子を確認した。(X)
	視覚障害がある避難者の受け入れ	視覚障害者連絡会から寄宿舎へ避難者を受け入れてほしいという申し出があった。	・受け入れを決定した時期が遅く希望者はすでに別の場所に避難した。(X) ・事前に災害時の寄宿舎の利用方法について決めておくといよい。卒業生の受け入れも考えられる。(Y)
	授業再開後の課題	ガスの復旧に時間を要した(約8か月)。点字を読む際にストーブが必要。通常時に使用していたガスストーブ	保管してあった昔のストーブを使用。(X)

		が使えない。	
		数名の生徒が通学できず転校。	
		精神的なダメージを受けた生徒がいた。	
		防火扉が全て閉まっていた、渡り廊下がずれていた。	避難経路の見直し。(X)

表4 D氏（視覚特別支援学校の現役教員）

課題カテゴリ		課題の内容	解決策（解決に向けて実際に実施したこと（A）、今後の課題解決の提案(B)）
防災の位置づけ	近年の災害経験	台風や大阪北部地震が起きた日が偶然休校日と重なるなど対応せずに済んできた。	
	学校防災	防災担当者が熱心でないと前年の踏襲になる。	
	避難訓練	悪条件について考慮しない（避難訓練の時は担任の授業となるよう事前調整）。	
保護者との連携	災害時の取り決め	取り決めがあまり無い（引き渡しカード無し、通学時の取り決め無し、放課後デイどうするか取り決め無し）。 ・自力通学者は自己判断で、保護者の送迎により通学している生徒は保護者が判断するとの期待。	
備蓄		備蓄の不備	熱心な保護者の意見により生徒人数分備蓄食料を確保。(X)
地域との連携		県立なので他地域からの通学者が大半であり、踏み込んで交流がし辛い。	年1度の学校の祭り、地域住民対象の鍼灸治療の実習などは継続している。
卒業生との関係		知的障害のあるクラスは在校生や保護者も参加する同窓会がある。災害時の受け入れ等に関わる可能性があるが、学校側は同窓会についてあまり把握していない。	

表5 E氏（特別支援学校の現役教員）

課題カテゴリ		課題の内容	解決策（解決に向けて実際に実施したこと（X）、今後の課題解決の提案(Y)）
防災教育	障害種別	身体障害と知的障害双方の児童・生徒が通学しているため、教育、災害時の対応ともに課題がある。	
	児童・生徒との取り決め	登下校中に災害があったときに指示通りに動かない児童・生徒との連絡。	今後訓練などを実施予定。(Y)
設備		非常用電源のコンセントが無い階がある。	工事の実施を検討。(Y)
保護者との連携		災害時にメールを見ておらず、電話にも出ない保護者がいる。	今後取り決めの見直し、訓練の実施を検討。(Y)
地域との連携	放課後デイ	放課後デイとの取り決めが無い。	今後取り決めに検討。(Y)
	隣接小学校	隣接小学校が避難所となった際の棲み分けが不明。	・避難者に動線を明示。(Y) ・今後協議。(Y)

4. まとめ

特別支援学校では、PTA や同窓会の役割が普通校より大きく防災で一定の役割を果たしうること、県立の学校が多く地域との連携に課題があることなどが共通の課題として明らかになった。また、近年は放課後等デイなどの利用者が増加しているが連携に課題があること、福祉避難所として期待されていることを現役教員も意識しているが、避難所としての適不適があることなどの課題も明らかになった。

以上の知見を踏まえ、2022年2月に特別支援学校を対象とするアンケート調査を実施することとした。

